

今回はてんさい除草剤の上手な使い方についてご紹介致します。

まず、てんさい場面の除草において特筆すべきポイントはなんでしょうか…。いくつか挙げられますが、①他の作物に比べて長い期間に亘って除草剤を使用できる、②組み合わせパターンが多い、③てんさいは栽培面積が広く、除草に失敗するとその後の管理が大変になるのはもちろん、抜き草担当である奥さんとの関係悪化に繋がる…この3点でしょうか。

### 1. 除草剤の特性に合わせた除草法

主要薬剤としては、ベタナール乳剤、ハーブラックWDG、レナパック水和剤、デュアルゴールド、ベタダイヤS乳剤などがあります。中でも、ベタナール乳剤とハーブラックWDGを併せて使用している方は多いと思います。ベタナール乳剤は殺草スピードも早く、ハーブラックWDGとの組み合わせは茎葉処理効果の高い組み合わせと言えるでしょう。この組み合わせでは、ある程度雑草の発生が揃った頃に使用すると高い効果を期待できますが、光合成阻害により殺草するため、曇天や乾燥条件が続くと効果が低下する場合があります。また、ベタナール乳剤は茎葉処理効果の高さが売りの剤ですが、薬量が同じであれば散布水量は少ない方が効果は高くなる傾向にあります。使用するノズルも細かい方が良いでしょう。反対にハーブラックWDGは水溶解度が高く、雑草や土壌への浸透性・拡散性が高いため、散布水量による除草効果の影響は比較的受けにくい傾向にあります。しかし、土壌処理剤としての効果を出しやすくするためには、ある程度水量は多めの方が有効です。また、10aあたり300g以上使用すると、投下量に比例して土壌処理効果も現われてきます。平成26年度上市予定のベタナール乳剤とハーブラックWDGの混合剤であるベタハーブフロアブル700mlの使用でハーブラックWDG約300gの投下薬量になるので、散布後すぐカルチに入らないなど土壌処理効果を期待する場合にオススメです(有効成分同一投下薬量換算表参照)。なお土壌が適湿、かつ雑草発生始期までであれば、レナパック水和剤の高い土壌処理効果も期待されます。

### 2. 土壌条件等による除草法

てんさい除草剤の使用法の理想としては、土壌水分や雑草葉齢によって配合比率を変えるという考えもありま

す。土壌が適湿の場合は土壌処理効果を重視するためにレナパック水和剤やハーブラックWDGの薬量を多めに、雑草葉齢が進んでいる場合や土壌処理効果があまり期待できない条件(乾燥、砕土不足など)の場合はベタナール乳剤の薬量を多めにして茎葉処理効果を重視すると理想的です。雑草の葉齢や種類、土壌水分や期待する残効期間等により、どの剤の効果を重視するかを判断しましょう。

### 3. イヌホオズキ対策

やっかいな雑草イヌホオズキの対策としては、ベタハーブフロアブル700mlでも効果は期待できますが、ハーブラックWDGの投下量を400g相当以上に増やすと更に土壌処理効果が高まり、その後の発生密度低減が期待できます。ベタハーブフロアブルはタンクミックス同様、茎葉処理効果が高く効果発現も早いいため、カルチのタイミングを逃しにくいこともポイントです。

### 4. カルチについての注意点

カルチについても注意は必要で、雑草対策としてのカルチは発生している雑草に対しては有効なのですが、地中深くに存在していた雑草の種子がより地表面付近に移動し、後発生の原因となることもあります。タニソバはカルチをした方が増えるという話もありますので注意しましょう。

(シラタキ4405)

ベタハーブフロアブル有効成分同一投下薬量換算表

ベタハーブ フロアブル (ml)	投下薬量	
	ベタナール乳剤 (ml)	ハーブラックWDG (g)
100	67	42
200	135	85
300	202	127
400	269	170
500	337	212
600	404	255
700	471	297

(2014年1月)